

専門科目（共通問題）
出題意図と解答のポイント

問 1

出題の意図

大学院で学ぶために必要な、看護職者としての職業倫理に関する知識を有しているかをみます。

解答

①	増進	②	疾病	③	回復	④	苦痛	⑤	緩和
---	----	---	----	---	----	---	----	---	----

問 2 1)

出題の意図

腎機能についての理解度を問い、看護を实践するうえで必要な生理学的知識を有しているかをみます。

解答

①	d	②	g	③	h	④	a	⑤	f
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

問 2 2)

出題の意図

看護実践に必要な専門知識を有しているか、また、知識を活用し発達段階や既往歴、社会背景を踏まえながら必要な看護を考える思考力をみます。

解答のポイント

（1）A氏は、術後の血液検査異常はなく、片腎で腎機能を保持できています。腎摘出後の腎機能保護のためには、水分出納バランスの保持、ナトリウムを多く含む塩分の過摂取をさけて血圧コントロールを行い、蛋白摂取量を制限する必要はないですが過摂取をさけて老廃物を増やすことでの腎負荷をさけること、腎機能を失うような外傷に注意することが必要とされています。腎機能を保持できていますのでカリウム制限は必要ありません。食事内容としてナトリウム（塩分も可とします）と蛋白質の過摂取をさけること、ナトリウムが血圧を上昇させ腎負荷となることを防ぐことや、蛋白質の過摂取によって老廃物が増え腎の過負荷につながることを理由として解答します。高血圧はCKD発症リスク因子とされており、A氏は、高血圧の既往があるため、動脈硬化を促進し、高血圧悪化やCKD発症のリスクとなる脂質のとりすぎについての情報収集について記載されている場合も解答として可とします。肥満もCKD発症リスクとされていますが、A

氏は BMI や検査値以上はなく、高血圧以外の既往歴はないので、エネルギー過多は情報収集としての優先度はひくいいため、今回は蛋白質とその理由、ナトリウムとその理由、脂質とその理由が解答されていることがポイントとなります。記載の順不同は可です。

(2) A 氏は、腎細胞がんにて、片腎を摘出しています。腎細胞がんのステージは、リンパ節転移や遠隔転移はなく、手術によって癌細胞を取り除くことができたケースです。現在、片腎で腎機能を維持できていますが、高血圧の既往があり、今後も腎機能を維持していくために、水分出入バランスをとる生活を送る、外傷をさけることができることや、禁煙、アルコールの過剰摂取をさけ、ストレスを緩和するなどの高血圧悪化を予防できることが推奨されます。また、今後、がん予防に取り組んでいけることも必要です。がん予防のためには、食生活の整え以外に、禁煙、アルコールの過剰摂取をさける、適正体重の保持、適度な運動が推奨されています。A 氏は、BMI は正常範囲、一人暮らしで父や夫としての役割はありませんが、働き盛りの時期であり仕事とのバランスもととりながら、腎機能維持やがん予防の生活をしていけることが求められます。したがって退院支援に必要な情報収集内容としては、水分摂取状況、運動習慣（外傷リスクはないか、または適度な運動ができているか）、喫煙状況、休息がとれ過剰なストレスのリスクはないか、アルコール過剰摂取はないかの 5 つの内容のうち、いずれか 2 つと、その理由として①腎機能保持またはがん予防の観点、②発達段階や既往歴、社会的背景の観点の両面を踏まえて解答していることがポイントとなります。

問3

出題の意図

- 1) アドバンス・ケア・プランニング (Advance Care Planning ; ACP) は、近年の看護学領域における重要な概念のひとつである。ACP への関心と理解を確認する。
- 2) ACP に関する専門的知識、および看護専門職としての役割認識と看護実践能力、論理的思考力をみる。

解答のポイント

- 1) ACP が、本人らしく尊厳を持って人生を全うできるよう、意思決定を支援する話し合いのプロセスであることをふまえ、下記①～⑤に関する内容の記述があることが必要である。また、ACP が、エンド・オブ・ライフケアの質を高めることや、「人生会議」の愛称で周知されていることなども含めることもポイントとなる。
 - ①自分の将来の医療・ケアに関することである。：将来、誰から、どこで、どのように受けるか。
 - ②本人が主体である。：本人の目標・価値観を共有し、意思決定の実現を支援する。
 - ③繰り返し話し合うプロセスである。：適切に情報提供し、説明する。意思は変化することを前提に、見直す。
 - ④医療者だけでなく、本人・家族、医療・ケアチームが共に創り上げる。
 - ⑤年齢や疾患、健康状態を問わない。
- 2) 看護専門職の役割は、本人や家族、関係者との良好な関係を構築し、本人が主体的に ACP に取り組み、望む医療・ケアを受けることで、最期までその人らしく生き抜けるように支援することである。看護専門職は、日常的な活動やケアを通し、本人や家族の変化や状況を察知しやすく、本人の価値観や意思を見出し、ケアチームと協働した個別性のある ACP を推進できる立場にある。また、あらゆる人々に対し、ACP を周知できる立場にもある。
これらをふまえ、ACP のプロセスを進めるにあたり、看護専門職としての役割が簡潔明瞭に記述され、その役割と関連付けた、具体的な看護実践が記述されていることが必要である。
特に、「本人の意思決定支援」は中核的な役割であるため、記述は必須である。その他の役割として「本人、家族、関係者との良好な関係構築」「家族支援」「推定意思、最善方針の尊重」「話し合いにつながるような動機づけや場づくり」「医療・ケアに関する理解への支援」「医療・ケアチームの連携促進」「ACP に関する周知・啓発」などがあげられる。

問 4

出題の意図

看護専門職としての、基本的な知識を確認する。

解答

1) アウトリーチ	2) 7	3) , リプロダクティブ・ヘルス/ライツ
4) ネグレクト (養育の怠慢・放棄)	5) ポリファーマシー	6) 再興感染症
7) 活動	8) 還元 (型) ヘモグロビン	9) 回復過程
10) 「 前熟考期または、無関心期 」 → 「 熟考期または、関心期 」 → 「 準備期 」 → 「 実行期 」 → 「 維持期 」		